

FT-103

取扱説明書

技術基準適合認定品

☆ワンポイントチェック

外線を接続して電源を入れた時に、LINEランプが点滅する時は外線の極性が反対です。

「RVS」スイッチを切り替えて使用ください。(⇒P8)

このたびは、FT-103をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
本装置をご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使ください。

[TTE17162/03] (8J)

安全にお使いいただくために必ずご使用に
先立ってお読みください。

この「取扱説明書」には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

★ お願い

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

● お知らせ

この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

○本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通話、録音などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



安全にお使いいただくために
必ずお守りください。

- 本装置に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。 火災、感電の原因となります。
- 万一内部に水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店へご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- AC100 Vの電源電圧以外は絶対に使用しないでください。 火災・感電の原因となります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
- 加湿器のそばなど湿度の高いところでは使用しないでください。 火災・感電の原因となります。
- 本装置の上やそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器を置かないでください。 こぼれたり中に入った場合、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。 また、重い物を乗せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードが傷んだらお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
- テーブルタップ、分岐コンセント、分岐ソケットなどを使用した、たこあし配線はしないでください。 火災・感電の原因となります。
- 本装置の分解、改造はしないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
- 本装置の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。 万一異物が入った場合はお買い上げの販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
(特にお子様のいるご家庭ではご注意ください)
- 本装置のカバーは外さないでください。 感電の原因となります。 指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- 電源コードが傷んだ(芯線の露出、断線など)状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 電源プラグを抜いてお買い上げの販売店に交換をご依頼ください。
- 異常音がしたり、カバーなどが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 電源プラグを抜いてお買い上げの販売店に点検をご依頼ください。

● 万一煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。必ず電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

● 万一本装置を落としたり、カバーを破損した場合、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



注意

安全にお使いいただくために
必ずお守りください。

● 直射日光の当たるところや湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

● 電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

● 近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。

● 本装置を壁掛用に取り付ける場合は、本装置の重みにより落下しないようにしっかり取り付け、設置してください。落下してけがの原因となることがあります。

● 油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所などに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● 本装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。カバーや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

● ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

● 長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

● 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

● お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

● 本装置を廃棄する時は、一般廃棄物として捨てないでください。廃棄時は管轄の自治体（区市町村役場等）に連絡して、しかるべき業者に廃棄を依頼してください。守らないと環境を破壊して、第三者の身体や財産に損害を与える原因になることがあります。

★ お願い

故障の原因になることがあるため必ずお守りください。

- コードレスホンの主装置または親機を本装置の近くに設置すると、電話がつながらなかったり、通話に雑音が入ったりすることがありますのでご注意ください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- ベンジン、シンナーなどで絶対にふかないでください。
汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を布につけ、よく絞ってからふいて、その後乾いた柔らかい布でふきとってください。
- 次のような場所への設置は避けてください。
 - ・ごみやほこりの多い場所、鉄粉・有毒ガスなどが発生する場所。
 - ・製氷倉庫など、特に温度が下がる場所。
 - ・テレビ、ラジオ、こたつ、アンプ、スピーカボックスなど、磁気を帯びているところや電磁波が発生している場所。
- 本装置に接続する電話機等は、端末機器の技術基準適合認定を受けた電話機等を使用してください。
- 本装置は電話機等により使用出来ないものがあります。
(NTTと同等の呼び出し信号が必要な電話機等)
- ビジネスホンやホームテレホンの4線式の内線側には接続できません。接続する時は、外線側にしてください。
- 共同電話・地域集約電話・公衆電話・L電話機(高損失加入者用電話機)等には使用できません。
- LCRアダプターやキャット(CAT)は外線側に接続してください。
増設ベル等は内線側の電話機内線に並列に接続してください。
- 本装置は国内用に設計されています。電圧、交換方式の異なる海外では使用できません。
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第二種情報技術装置です。本装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、本装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本取扱説明書内の「⇒P ____」表示は、参照するページを表しています。

■ N T T への届け出

本装置をご使用にあたりましては、N T T への届け出が必要です。最寄りの N T T へご連絡ください。

本装置をご使用にあたって、N T T のレンタル電話機が不要となる場合は、N T T へご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって、**「機器使用料」は、不要となります。**

詳しくは、**局番なしの116番（無料）**へお問い合わせください。

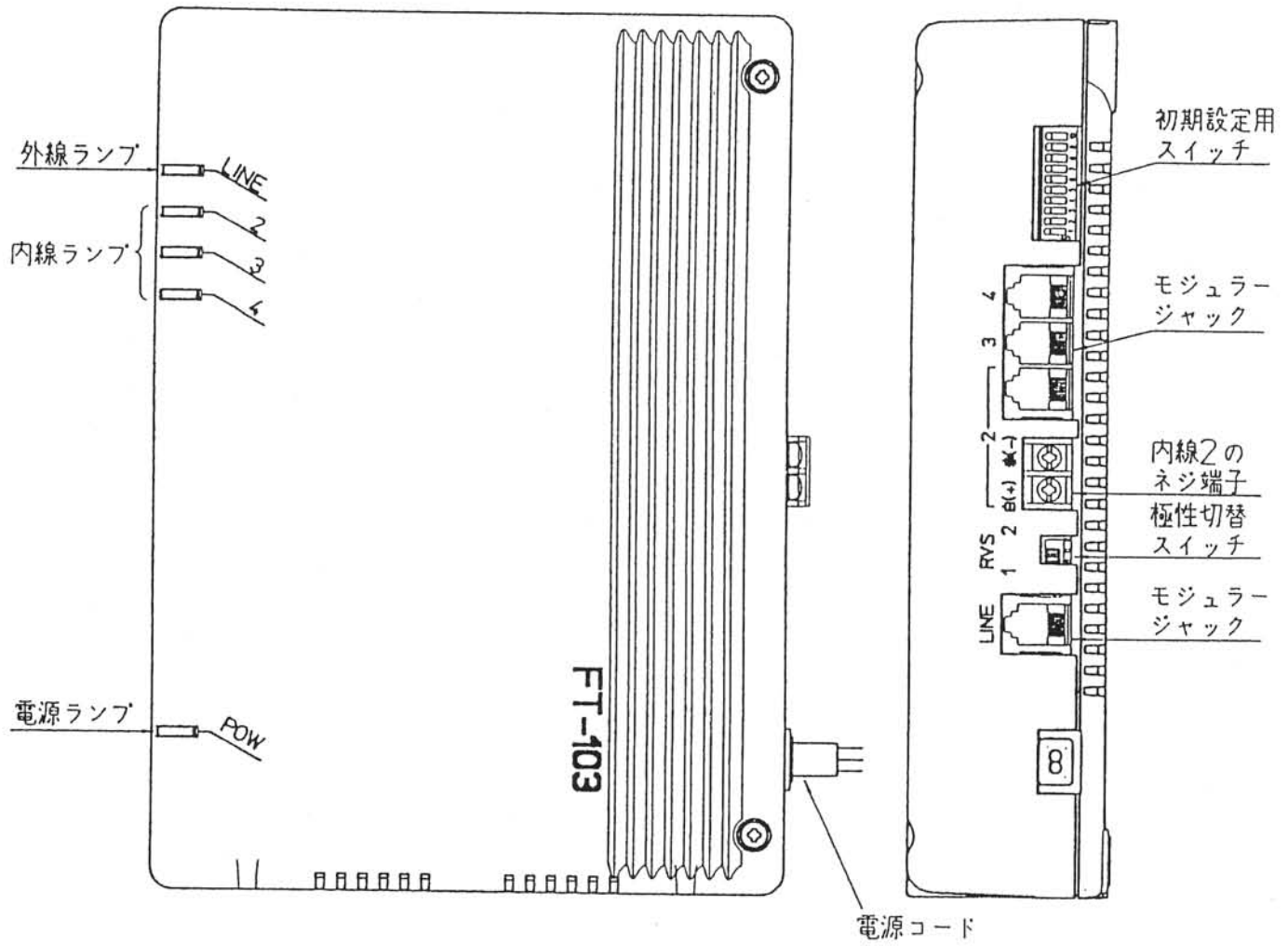
〔電話料金の内訳〕

- ①回線使用料 ご契約者名義等により住宅用と事務用に区分され、回線使用料が異なります。
- ②屋内配線使用料 保安器から屋内の電話機のさしこみ口までの屋内配線を N T T からレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
- ③**機器使用料** **N T T の電話機などをレンタルでご利用いただいている場合の料金です。**
- ④付加機能使用料 プッシュ回線、キャッチホン、クレジット通話などをご利用いただいている場合の付加機能の使用料金です。

■ 目 次

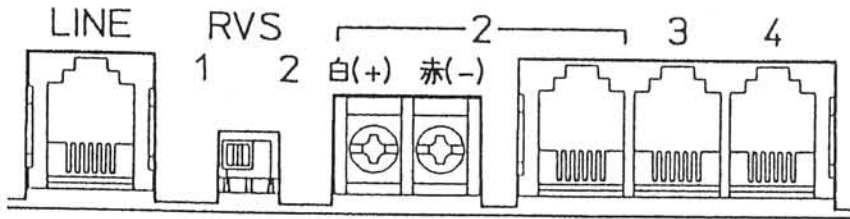
安全にお使いいただくために必ず ご使用に先立ってお読みください	2
■ N T T への届け出	6
1. 各部のなまえとはたらき	7
2. 接続	
●外線／内線機器の接続	8
●ピンク電話機の接続	8
●増設ベル、ピンク電話切替装置、L C R アダプター等の接続	10
3. 自動モードでの使い方	11
4. リモートモードでの使い方	12
5. なりわけサービスの利用	13
6. 対向通信機能	14
7. その他の使い方	
●ナンバー・ディスプレイ端末の接続	15
●電話の優先発信	15
●着信転送	16
●F ネットの無鳴動着信サービスを利用する時	16
●内線 S I R 呼出	16
●全データの初期値化	16
8. 初期設定用スイッチの設定	17
9. システムデータの登録	
●準備	18
●登録	18
●システムデータ一覧表	19
10. システムデータ登録内容の確認	23
11. ランプによる状態表示	24
12. 困ったときのチェックポイント	25
13. 取り付け	27
14. ピンク電話の異常動作	28
■アフターサービス	29
■保証書	31
■仕様	32
■添付品	32

1. 各部のなまえとはたらき



2. 接続

外線／内線機器の接続



- LINE : NTTの電話回線
2 (内線 2) : 電話機、FAXまたはモデム
3 (内線 3) : モデム
4 (内線 4) : モデム

ピンク電話機の接続

【NTT回線の極性確認】

- ・NTT回線は「LINE」に接続してください。
- ・極性は必ず「L1プラス」「L2マイナス」になるように接続してください。

《極性確認方法》

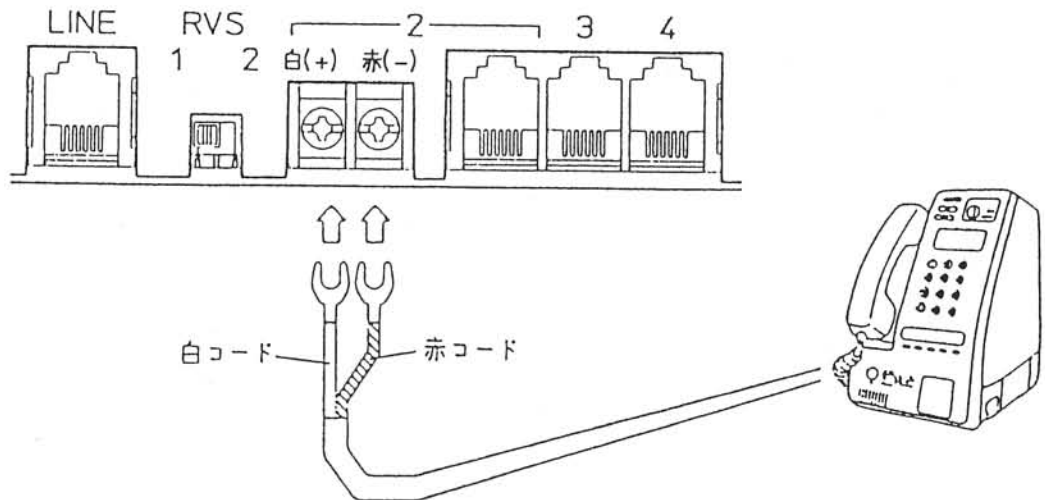
- ①NTT回線を「LINE」に接続してください。
- ②本装置の電源を入れてください。(POWランプ点灯)
- ③電源を入れた時に「LINE」ランプが点滅しないときは、極性は正常です。
- ④「LINE」ランプが点滅する時は、極性が反対です。
- ⑤「RVS」スイッチを「2」側に切替えてください。
- ⑥「LINE」ランプが消灯して正常になります。

お願い

- ★ネジ端子への接続の場合には、電話工事担任者の資格又は電話工事担任者の資格者の監督下での接続が必要です。お買い上げの販売店等にご相談ください。
- ★「RVS」スイッチが接続前に「2」側になっていた時は、確認方法の⑤で「1」側に切替えてください。
- ★ナンバーディスプレイ端末の接続時にも外線の極性は、L1プラスでないとは正常動作しません。
- ★極性確認時は、必ず待機中に行ってください。
- ★極性確認は、NTT回線を想定しているので、PBXの内線等では正常に確認できません。

【本装置との接続】

- ・ピンク電話機は、モジュラー接続式ピンク電話機を除き必ずネジ端子に接続してください。
- ・ピンク電話機の白色のコードをネジ端子の「白」表示へ、赤色のコードを「赤」表示に接続してください。
反対に接続しますと、正常に動作しません。 (⇒P 28)



- ・モジュラー接続式ピンク電話機（PてれほんS）の場合、ピンク電話機のディスプレイ表示に「ガイセンセッテイ ヘンコウ」と表示されたら、ピンク電話機の金庫カバー内部にある「外線設定スイッチ」で切替えます。詳しくは、ピンク電話機の取扱説明書でご確認ください。

【接続可能なピンク電話機の型名】

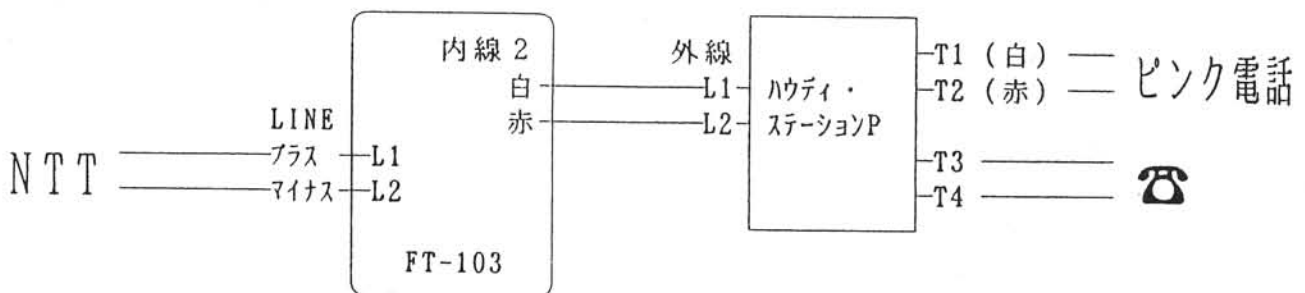
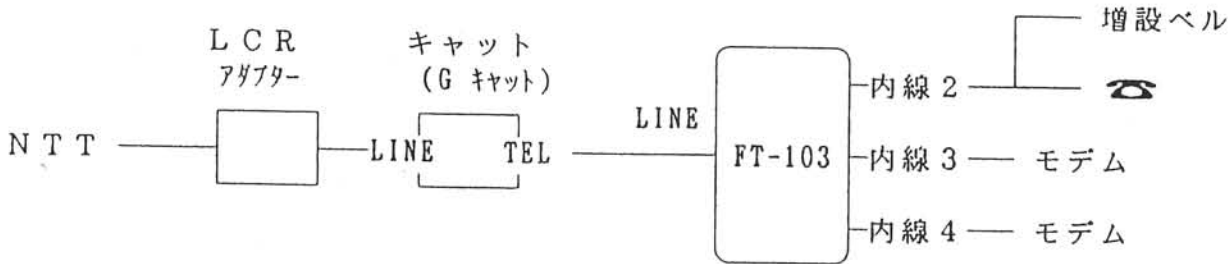
- | | | | |
|----------|-----------|------------|----------|
| ・ 675S | ・ 675P | ・ PT-12 | ・ PてれほんF |
| ・ 675A1 | ・ 675P-VB | ・ PT-4 | ・ PてれほんS |
| ・ 675A2 | ・ PT-1P | ・ PT-3CLN | |
| ・ 675SA1 | ・ PT-1PN | ・ PてれほんIII | |
| ・ 675SA2 | ・ PT-2PW | ・ PT-51 | |

お願い

- ★「カード式ピンク電話機 MC-6」は、使用できません。
- ★PT-4（PてれほんE）は、「電話の優先発信」機能が使用できません。
(⇒P 15)
- ★NTT回線およびピンク電話機を接続したら、必ずピンク電話機の発信、着信の確認をしてください。
尚、確認は硬貨を使用して行ってください。
- ★キー等での硬貨無しでの動作確認は避けてください。正常確認にはなりません。
- ★フリーダイヤル（「0120」）等の無料通話での動作確認は避けてください。
- ★上記以外のピンク電話の接続については、ご相談ください。

増設ベル、ピンク電話切替装置、LCRアダプター等の接続

- ・増設ベル、ピンク電話切替装置（NTT/ハウディ・ステーション P）、LCRアダプター を接続する場合は、接続する位置によって正常に動作しないことがあります。下図の位置に接続してください。



- ・本装置の外線をL1 プラスになる様に接続します。（⇒P 8）
- ・本装置の内線2とハウディ・ステーションPの外線を接続します。
- ・本装置の内線2の「白」表示とハウディ・ステーションPの外線の「L1」表示を接続し、本装置の内線2の「赤」表示とハウディ・ステーションPの外線の「L2」表示を接続します。正常に接続しないと、動作しません。

お願い

- ★増設ベルが外線部分に接続されていると、本装置が自動応答した後に電話機を呼出しますが、この時に増設ベルは鳴りません。
- ★ネジ端子への接続の場合には、電話工事担任者の資格又は電話工事担任者の資格者の監督下での接続が必要です。お買い上げの販売店等にご相談ください。

お知らせ

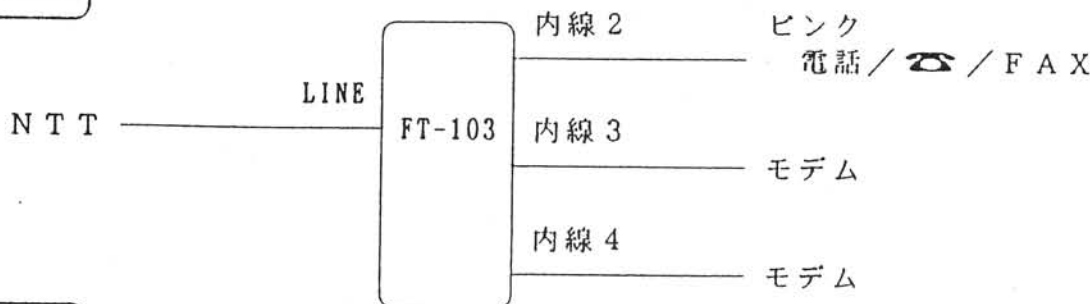
- 増設ベルを接続時、電話機をモジュージャックの内線2に接続して、増設ベルをネジ端子に接続しても正常に動作します。
- モジュージャックとネジ端子は、本装置内で接続されています。

3. 自動モードでの使い方 (自動切替機能)

外線着信した場合、本装置が自動応答して相手からのPB信号で指定の内線に着信します。

相手からのPB信号が無いときは、約3秒後に内線2を呼び出します。

接続図



設定

- ・初期設定用スイッチSW1はOFF (初期設定) で使用できます。(⇒P17)

使用方法

- ・電話、FAXは必ず内線2に接続してください。通常にご使用できます。尚、モデムが通信中の場合は、話中音が聞こえて使用できません。
- ・モデムへの着信は、本装置が自動応答した後、相手からのPB信号により切替えて着信します。
- ・特定ID (PB信号) は登録により変更できます。(⇒P19 NO.1)
- ・着信時に内線を約1分呼び出しても、内線で応答しない時は回線を切断します。内線呼出時間は登録により変更できます。(⇒P19 NO.2)
- ・PB信号検出時間はスイッチ設定及びシステムデータ登録により変更できます。(⇒P17、19 NO.3)

お願い

★NTT回線から本装置のLINEに接続される外線の極性は、必ずL1プラス、L2マイナスにしてください。FAXの種類によっては発信ができない場合があります。(⇒P8)

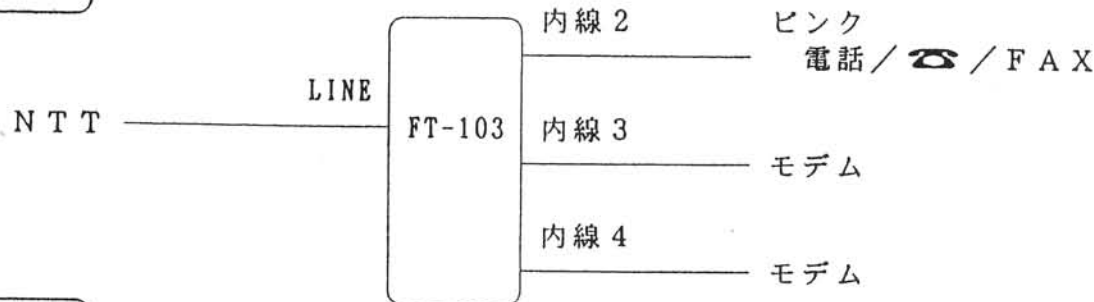
お知らせ

- 着信時、本装置が自動応答した時点から相手側には通話料金がかかります。
- 本装置が自動応答すると、相手には呼出音(トゥル-トゥル-音)を返します。
- 停電時は内線2が外線と直通になりますので、モデムへの切替機能は使用できません。よって、モデム通信はできません。

4. リモートモードでの使い方 (電話着信優先機能)

外線着信した場合、本装置が自動応答しないで直接「内線2」に着信しますので、相手を待たせず、単独電話と同じようにご使用いただけます。
モデムへの着信は、リモートモードから自動モードに切替わってから、PB信号により指定の内線呼び出します。

接続図



設定

- ・初期設定用スイッチSW1をONにします。(⇒P17)

使用方法

- ・電話、FAXは必ず内線2に接続してください。通常にご使用できます。尚、モデムが通信中の場合は、話中音が聞こえて使用できません。
- ・着信時に内線2を約45秒間呼び出しても、内線2で応答しない時は、本装置が自動応答します。以後は「自動モード」を参照してください。(⇒P11)
- ・モデムの通信は、最初約45秒以上呼び出し、自動モードに替わってから、発信側のリトライにより内線指定をします。
- ・「リモートモード」から「自動モード」への切替時間「約45秒」は登録により変更できます。(⇒P19 N0.4)
- ・着信時に自動応答するFAX、留守番電話等を接続している場合は、「自動モード」への切替えができませんので、「自動モード」でご使用ください。(⇒P11)

お願い

★NTT回線から本装置のLINEに接続される外線の極性は、必ずL1プラス、L2マイナスにしてください。FAXの種類によっては発信ができない時があります。(⇒P8)

お知らせ

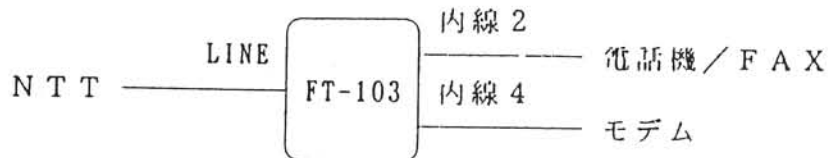
- 「リモートモード」から「自動モード」に切り替わった時は、内線2を使用する事により「リモートモード」に戻ります。
- 着信時、本装置が自動応答した時点から相手側には通話料金がかかります。
- 本装置が自動応答すると、相手には呼出音(トゥル-トゥル-音)を返します。
- 停電時は内線2が外線と直通になりますので、モデムへの切替機能は使用できません。よって、モデム通信はできません。

5. なりわけサービスの利用

NTTへの手続き

- ・なりわけサービスは、NTTの交換機の種類によってご利用できない場合がありますのでお近くのNTTへお問い合わせください。

接続図



設定

- ・初期設定用スイッチSW7をONにします。(⇒P17)
- ・モデムに接続させる相手側の電話番号をNTTの交換機に登録します。
例) 「147」ダイヤル→音声ガイダンス→「2」ダイヤル→相手電話番号を市外局番からダイヤル→音声ガイダンス→終了
- ・電話番号の登録は10件までできます。
(詳細は、なりわけサービスの使用説明書を参照してください)

使用方法

- ・登録してある電話番号からの着信は、内線4に直接着信します。
- ・登録していない電話番号からの着信は、内線2に着信します。
- ・発信は、通常にご使用できます。
- ・1つの内線が使用中の場合には、他の内線は話中音が聞こえ使用できません。

お願い

- ★ボイスワープセレクトを契約していると、登録リストが共用しているため、ご利用できません。

お知らせ

- ダイヤルインサービスと重複しての契約はできません。
- 電話局内の工事費と毎月の使用料が必要になります。

■使用上の注意

お知らせ

- 停電時には、登録していない電話番号からの着信は通常に着信しますが、登録してある電話番号からの着信は、内線2が短い音(リンリン、リンリン)で鳴ります。

6. 対向通信機能

本装置を発信側と着信側の双方に設置すると、発信側装置の「内線3」に接続したモデムから着信側の電話番号をダイヤルするだけで着信側装置の「内線3」に自動接続します。

同様に「内線4」からも着信側の「内線4」に接続させることができます。
対向通信機能には付加番号付発信AとBがあります。

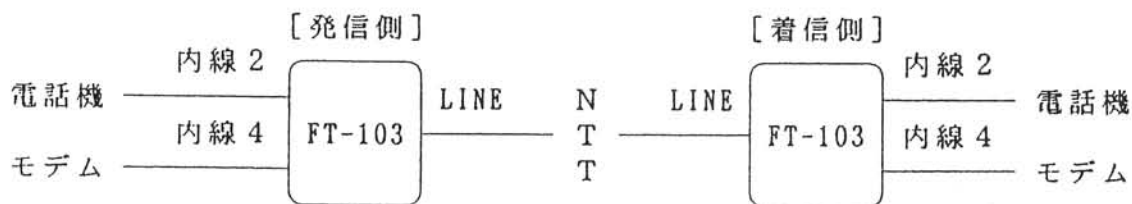
付加番号付発信A

- ・発信側の回線が相手応答時に極性反転する場合に使用します。
- ・通常のNTT回線は、極性反転しますので、付加番号付発信Aで使用します。

お願い

★内線3、4は、「付加番号付発信A」に初期設定されていますが、内線2も同様に使用するには、システムデータ登録が必要です。(⇒P20 N0.5)

- [動作] ①発信側モデムがダイヤルをする。
②着信側装置が自動応答すると、発信側の回線が極性反転してこれを検出する。
③発信側装置がPB信号「4#」を送出する。
④着信側装置がPB信号「4#」を検出して「内線4」に接続する。



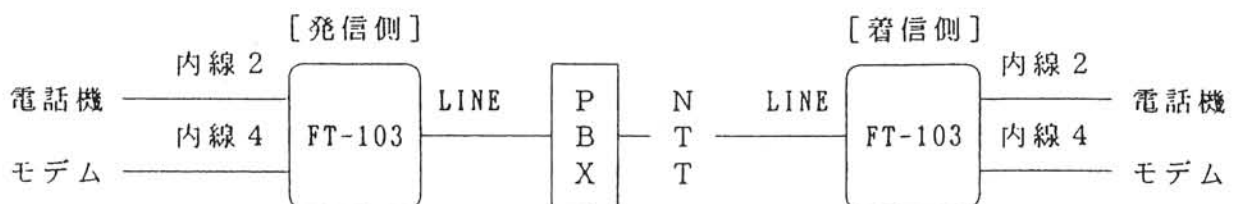
付加番号付発信B

- ・発信側の回線がPBX等の内線で、相手応答時に極性反転しない時に使用します。

お願い

★内線3、4を「付加番号付発信B」に設定してください。(⇒P17)
内線2も同様に使用するには、システムデータ登録が必要です。
(⇒P20 N0.5,6)

- [動作] ①発信側モデムがダイヤルをして、桁間タイミグ後に発信側装置がPB信号「4#」を断続的に送出手します。
②着信側装置が自動応答して「4#」を検出すると、発信側に「4#」を返し、同時に「内線4」に接続します。
③発信側装置が「4#」を検出すると、「4#」の断続送出手を停止してモデムを接続します。



7. その他の使い方

ナンバー・ディスプレイ端末の接続

ナンバーディスプレイ端末が接続でき、NTTのナンバーディスプレイサービスを受けることができます。

【設定】

- ・ナンバー・ディスプレイ端末は内線2に接続し、初期設定用スイッチSW9をONにしてください。(⇒P17)

お願い

- ★ナンバー・ディスプレイ端末の種類によっては、正常な番号表示等ができない場合があります。
- ★外線の極性は、必ずL1プラスで使用ください。(⇒P8)
L1マイナスで使用すると、正常にナンバーディスプレイ端末が動作しません。
- ★内線3、内線4に、ナンバーディスプレイ端末は接続できません。
- ★モデムへの着信時もナンバーディスプレイ端末の番号履歴に相手番号が残ります。
- ★対向通信機能「付加番号付発信A」を使用している場合、モデムからの着信時にナンバーディスプレイ端末のベルが1回鳴る場合があります。
この場合は、「付加番号付発信B」で使用ください。(⇒P14)

電話の優先発信

内線2から発信する場合、他の内線が使用中でも強制切断して発信することができます。緊急時等に便利です。

【設定・使用方法】

- ・内線2に電話を接続し、初期設定用スイッチSW4をONにしてください。
(⇒P17)
- ・内線2以外が使用中でも内線2の受話器を上げると、強制切断して発信できます。

☆ピンク電話機PT-4 (PHONE) の場合は、優先発信ができません。

お知らせ

- 内線2に発信音(「ツ」という連続音)が聞こえるまでに、約3~6秒かかります。
- 切断された内線は話中音になります。
- 優先発信中は、特殊発信なので、LINE、内線2ランプは、消灯しています。
- PBX内線、ターミナルアダプタのアナログポートに接続している場合は、正常に優先発信ができない場合があります。
- 自動送信によるFAXからの優先発信は、正常に動作できません。
発信音を確認してから送信してください。

着信転送

【設定・使用方法】

・システムデータで「着信転送あり」にしてください。(⇒P 2 0 N0.10)

- ①. 着信通話中、転送先の番号をダイヤルします。
[PB回線の場合]内線2:「2#」、内線3:「3#」、内線4:「4#」
[DP回線の場合]内線2:「2」、内線3:「3」、内線4:「4」
- ②. 転送先が呼び出され、操作した内線は話中音になります。
(外線には呼出音が聞こえます。)
- ③. 転送先の応答により外線との通話になります。
(約30秒経過しても応答しないと、切断します。)

お知らせ

- 留守番電話機等のリモート操作で、2#・3#・4#を使用する場合には、転送番号をシステムデータで変更してください。(⇒P 2 0 N0.11)
変更しないで使用すると、留守番電話のリモート操作時に転送になってしまい操作が正常にできません。

Fネットの無鳴動着信サービスを利用する時

【設定・使用方法】

- ・初期設定用スイッチSW8をONにしてください。(⇒P 1 7)
- ・FAXは必ず内線2に接続してください。
- ・FAX本体がFネットの無鳴動着信サービス機能がない場合は使用できません。

内線SIR呼出

PBXの内線接続時に、ダイヤルイン等による外線着信(IR)と内線着信(SIR)をベルの周期で区別していた場合に使用します。

【設定・使用方法】

- ・システムデータで「内線SIR呼出機能あり」にしてください。(⇒P 2 0 N0.12)
- ・PBXの外線着信(IR)がきた時は、内線2が通常の着信をします。
- ・PBXの内線着信(SIR)がきた時は、内線2が「リリッ、リリッ…」という内線着信をします。

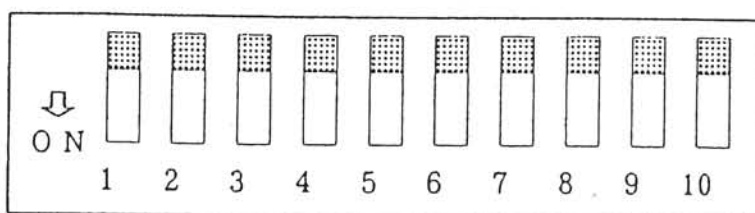
お知らせ

- PBXの内線着信周期によっては正常に動作できない場合があります。

全データの初期値化

- ・システムデータで初期値化してください。(⇒P 2 2 N0.27)

8. 初期設定用スイッチの設定



OFF

工場出荷時は、すべてOFFに設定されています。

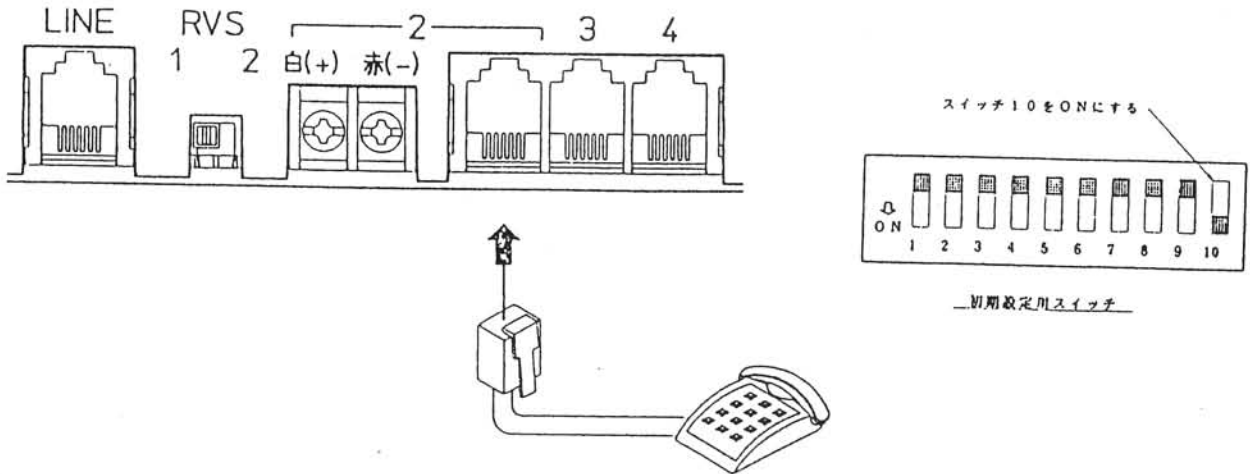
ON

NO	機能	スイッチの設定
1	<u>着信モード</u> 「自動モード」はOFF (⇒P11) 「リモートモード」はON (⇒P12)	自動 リモート
2	<u>内線3の付加番号付発信モード</u> 「付加番号付発信A」はOFF 「付加番号付発信B」はON (⇒P14)	A B
3	<u>内線4の付加番号付発信モード</u> 「付加番号付発信A」はOFF 「付加番号付発信B」はON (⇒P14)	A B
4	<u>電話の優先発信</u> 優先発信する時はON (⇒P15)	しない する
5	<u>内線4の即呼出</u> 即呼出する時はON (特殊設定ですので通常はOFFで使用ください。)	しない する
6	<u>自動応答時の信号検出時間</u> 「3秒」はOFF 「5秒」はON (⇒P11)	3秒 5秒
7	<u>なりわけサービスの利用</u> 利用する時はON (⇒P13)	利用しない 利用する
8	<u>Fネットの無鳴動着信サービスの利用</u> 利用する時はON (⇒P16)	利用しない 利用する
9	<u>ナンバー・ディスプレイ端末の接続</u> 接続する時はON (⇒P15)	接続しない 接続する
10	<u>システムデータの登録</u> システムデータを登録する時はONにします。 登録後は必ずOFFに戻してください。 (⇒P18) ONにするとLINE、内線2～4のランプが全て点滅し、 OFFにすると消灯します。	運用 登録

9. システムデータの登録

準備

- ①. お手持ちの電話機を内線 2 に接続してください。
- ②. 初期設定用スイッチ SW 10 を ON にしてください。(⇒ P 17)
- ③. 本装置の電源コードを AC 100 V コンセントに差し込んでください。



登録

内線 2 に接続した電話機からダイヤルして登録します。

1	<p>受話器を上げます。 『フッー フッー…』という音が聞こえます。</p>
2	<p>登録番号をダイヤルします。 登録されると『ブブブブ』という確認音が聞こえたあと、 『フッー フッー…』という音に変わります。</p>
3	<p>受話器をおろします。</p>

お知らせ

- 初期設定用スイッチ SW 10 を ON にすると LINE、内線 2 ~ 4 ランプ が遅い点滅になります。
- 内線 2 の受話器を上げ、登録番号をダイヤルする前に内線ランプが点灯しますが故障ではありません。
- 『ブー、ブー、……』という話中音になった時は登録されていないので初めから登録をやり直してください。
- 登録は連続して行えます。
「ブブブブ」という確認音が聞こえたあと「フッー フッー…」という音が聞こえたら次の登録番号をダイヤルしてください。
すべての登録が終わったら受話器をおろしてください。
- 登録は、上書き出来ます。
- 本装置の電源が切れても、変更したデータは故障等しない限り、保持されます。

★登録後は、スイッチ SW 10 を必ず OFF に戻してください。

システムデータ一覧表

は初期値です。
(時間は「およそ」で表しています。)

NO	機能名	登録内容	登録番号	点灯ランプ	備考				
1	ID番号の変更	任意のID登録	9 + 内線番号 + ID番号	LINE + 2	ID番号は1～4桁で任意に登録できる。 「#」記号は最初又は、最後に使用してください。 「#」が最初の時は3桁まで。 例)「222#」 「#22」 「#12」				
		特定IDの登録		LINE					
	内線2	内線3	内線4	2 #		3 #	4 #	9 1 0	2
	# 2 2	# 3 3	# 4 4					9 1 1	3
	0 2 #	0 3 #	0 4 #					9 1 2	4
	# 0 0	# 9 9	# 7 7					9 1 3	
	(⇒P 1 1)	確認						9 1 9	
2	自動応答時の内線呼出時間 (⇒P 1 1)	3 0 秒	7 1	2					
		4 5 秒	7 2	3					
		1:分	7 3	LINE					
		1 分30 秒	7 4	4					
		2 分	7 5	LINE + 2					
		4 分16 秒	7 6	LINE + 3					
		確認	7 9						
3	自動応答時の信号検出時間 (⇒P 1 1)	S:W選択	4 0	LINE	S W 選択時は、 ティップスイッチで3秒 と5秒の選択ができる。				
		7 秒	4 1	2					
		1 0 秒	4 2	3					
		1 5 秒	4 3	4					
		2 0 秒	4 4	LINE + 2					
		2 5 秒	4 5	LINE + 3					
		確認	4 9						
4	リモートモードから 自動モードへの切替時間 (⇒P 1 2)	切替なし	6 0	2					
		1 5 秒	6 1	3					
		2 1 秒	6 2	4					
		3 0 秒	6 3	LINE + 2					
		4:5 秒	6 4	LINE					
		1 分	6 5	LINE + 3					
		1 分30 秒	6 6	LINE + 4					
		2 分	6 7	LINE+2+3					
		確認	6 9						

N0	機能名	登録内容	登録番号	点灯ランプ	備考
5	内線2の付加番号付発信 (⇒P14)	なし A B 確認	020 021 022 029	LINE 2 3	
6	内線2の着信時の応答信号 の送出 (⇒P14)	なし あり 確認	320 321 329	LINE 2	付加番号付発信 Bの受信側装置 に登録する。
7	内線3の付加番号付発信 機能の有無 (⇒P14)	なし あり 確認	030 031 039	2 LINE	付加番号付発信 A、B選択は、 ティップスイッチで行う
8	内線4の付加番号付発信 機能の有無 (⇒P14)	なし あり 確認	040 041 049	2 LINE	
9	ダイヤル桁間 タイミングの変更 (⇒P14)	3秒 4.5秒 6秒 8秒 10秒 12秒 確認	971 972 973 974 975 976 979	2 LINE 3 4 LINE + 2 LINE + 3	付加番号付発信 Bの時のダイヤル 終了からPB 送出までのタイ ミング
10	着信転送 (⇒P16)	転送なし 転送あり 確認	900 901 909	LINE 2	
11	PB転送番号の変更 (⇒P16)	2# ~ 4# 2* ~ 4* 確認	951 952 959	LINE 2	
12	内線SIR呼出機能の有無 (⇒P16)	なし あり 確認	860 861 869	LINE 2	
13	リモートモード時の「自動から リモートモード」への解除方法	内線 発信 常に解除 確認	511 512 519	LINE 2	特殊登録ですの で、絶対に変更 しないでくださ い。
14	リモートモードの特殊選択	通常 G仕様1 G仕様2 O仕様 確認	501 502 503 504 509	LINE 2 3 4	機能の詳細につ いては販売元等 にお問い合わせ ください。

NO	機能名	登録内容	登録番号	点灯ランプ	備考
15	リポートモードの「O仕様」時の 電話応答後の自動応答切替 時間	5秒 7秒 10秒 15秒 確認	521 522 523 524 529	2 3 LINE 4	<p>特殊登録ですので、絶対に変更しないでください。</p> <p>機能の詳細については販売元等にお問い合わせください。</p>
16	なりわけモードの選択	通常 自動モード の併用 確認	821 822 829	LINE 2	
17	発信転送	転送なし 転送あり 確認	960 961 969	LINE 2	
18	内線指定信号の桁間タイマ	0.3秒 0.5秒 1秒 2秒 3秒 5秒 確認	981 982 983 984 985 986 989	2 LINE 3 4 LINE + 2 LINE + 3	
19	信号検出時間中の RBT送出の有無	なし あり 確認	810 811 819	2 LINE	
20	内線呼出信号の周波数	20Hz 15Hz 確認	851 852 859	LINE 2	
21	外線へのPB信号送出時間	100ms 200ms 300ms 確認	841 842 843 849	LINE 2 3	
22	内線端末の切断監視時間	1.5秒 0.1秒 確認	801 802 809	LINE 2	
23	外線着信検出から自動応答 までの時間設定	0.5秒 0.8秒 1.0秒 1.2秒 1.5秒 確認	871 872 873 874 875 879	2 3 LINE 4 LINE + 2	

N0	機能名	登録内容	登録番号	点灯ランプ	備考
24	ナンバーディスプレイ端末 の特殊登録	通常 特殊1 特殊2 特殊3 確認	831 832 833 834 839	2 LINE 3 4	特殊登録ですの で、絶対に変更 しないでくださ い。
25	ナンバーディスプレイ端末 の先呼び時間	1. 7秒 2. 0秒 2. 3秒 2. 6秒 2. 9秒 3. 2秒 3. 5秒 3. 8秒 4. 1秒 確認	881 882 883 884 885 886 887 888 880 889	2 3 LINE 4 LINE + 2 LINE + 3 LINE + 4 2 + 3 3 + 4	機能の詳細につ いては販売元等 にお問い合わせ ください。
26	システムデータの変更確認 (⇒P23)	「009」ダイヤル LINEランプ 点灯：全て初期値 2ランプ 点灯：ID番号変更 3ランプ 点灯：機能データ変更 4ランプ 点灯：タイミングデータ変更			
27	全データの初期値化 (⇒P16)		*# 又は 9900	回線ランプ 全て点灯	*#はPB電話 機のみ有効

10. システムデータ登録内容の確認

登録されているシステムデータの内容を回線ランプ表示で確認できる。

確認方法

- ・「システムデータの登録」において、各項目の確認番号をダイヤルする。
(下1桁が9の番号)
- ・LINE、内線2～4のランプの点灯により登録されている内容が確認できる。

例) 機能名「自動応答時の信号検出時間」を「10秒」に変更してあった時の確認方法

- ①. 初期設定用スイッチSW10をON。(⇒P17)
- ②. 内線2の受話器を上げる。
- ③. 『49』をダイヤルする。(⇒P19 NO.3)
- ④. 「3」のランプが点灯する。

「3」のランプが点灯することによって「10秒」に変更してあることが確認できる。

お知らせ

- 任意登録したID番号の番号自体の内容確認はできません。
但し、変更したかどうかは確認できます。
- システムデータ登録時にも、登録した該当の表示ランプが点灯します。
- システムデータの初期値化をダイヤルしたときは、LINE、2～4ランプが全て点灯します。

システムデータの変更確認

- ・全てのシステムデータが初期値か項目別で変更になっているかが確認できる。
- ・「システムデータの登録」において、「009」をダイヤルする。

LINEランプ点灯	……	全てが初期値で変更はされていない。
2ランプ	点灯	…… ID番号が変更してある。
3ランプ	点灯	…… 機能のデータが変更してある。
4ランプ	点灯	…… タイミングのデータが変更してある。

お知らせ

- 各ランプが点灯しても、どの項目が変更になっているかは、わかりません。
個別の確認方法で確認してください。
- タイミングのデータとは、時間及び周波数に関する機能です。
- 複数の機能が変更になっている場合は、該当するランプが同時点灯します。
例えば、「機能のデータ」と「タイミングのデータ」が変更になっている時は、2と4のランプが点灯します。

1 1 . ランプによる状態表示

外線、内線のランプ表示により使用中等の状態がわかります。
又、NTT回線の極性がランプ状態により確認できます。

LINEランプ (外線ランプ)

動作状態	ランプ表示
待機中、外線未接続	消灯
外線着信中	早い点滅 (240 ipm)
装置自動応答中	遅い点滅 (30 ipm)
通話中	点灯
L1 マイナスで配線した時の待機中	特殊点滅 (RVSスイッチで切替えることにより消灯)

内線ランプ (2~4ランプ)

動作状態	ランプ表示
待機中	消灯
内線着信中	早い点滅 (240 ipm)
ダイヤル中、通話中	点灯
話中音聴取中、受話器外し	遅い点滅 (30 ipm)

電源ランプ (POWランプ)

・電源コードがAC100Vコンセントに接続してあると点灯します。

お知らせ

- Fネットの無鳴動着信中は、LINEと内線2ランプが早い点滅をします。
FAXの応答により、点灯状態(通話中)になります。(⇒P16)
- ナンバー・ディスプレイ端末接続時の最初の呼出信号時(起動信号)も早い点滅になります。
- 優先発信で内線2が発信したときは、特殊発信なのでランプ点灯はしません。
- 初期設定スイッチSW10をONにした時は、システムデータ登録モード中なのでLINE、内線2~4が遅い点滅になります。

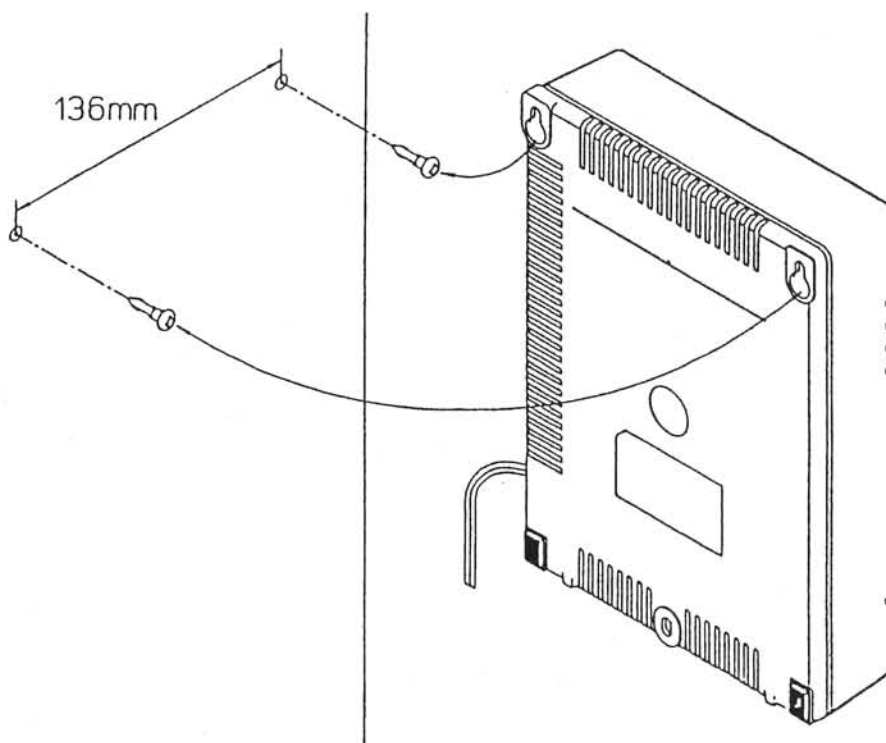
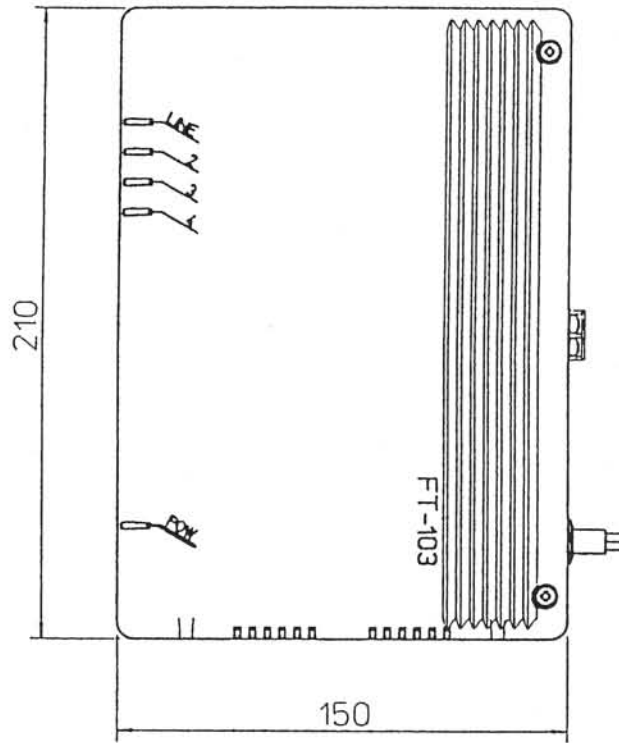
12. 困ったときのチェックポイント

症 状	確 認 事 項
電源を入れるとLINEランプが点滅する。	外線の接続がL1マイナスで接続されると点滅します。 「RVS」スイッチを切り替える事によりL1プラスになり、LINEランプが消灯します。 (⇒P8)
ナンバーディスプレイ電話機の番号履歴にいつも知らない番号が残っている。	モデム等からの着信時にも、一度ナンバーディスプレイ端末で応答していますので、履歴に残ります。 (⇒P15)
ピンク電話に硬貨を入れても何も聞こえず発信できない。	外線がL1プラス、L2マイナスになっていますか？ 極性を入れかえてみてください。 (⇒P8) ピンク電話機の白色コードをネジ端子の「白」表示に、赤色コードをネジ端子の「赤」表示に接続してください。 逆になっていると正常に使用できません。 「白」表示はプラス、「赤」表示はマイナスになっています。 (⇒P9)
ポートスピンク電話機のLCD表示に「シラクマチクダイ」と表示されて正常に発信ができない。	外線側又はピンク電話の赤、白の接続が逆です。 入れ替えてみてください。 (⇒P8、9、28)
FAXの着信はできるが、発信できない。	外線がL1プラス、L2マイナスになっていますか？ 外線の極性を入れかえてみてください。 (⇒P8)
FAXの発信はできるが、着信ができない。	FAXは内線何番に接続していますか？ FAXは必ず内線2に接続してください。 本装置には、FAX切替機能はありませんので、FAXは必ず内線2に接続してください。
電話機、FAX等の発信ができない。	モデム等が使用中ではありませんか？ (その場合は話中音が聞こえます。)
発信・着信ができない。	スイッチSW10がONになっていませんか？ (LINE、2～4ランプが点滅になっていませんか？) システムデータ登録後は必ずOFFに戻してください。
内線2しか使えない。	電源コードが抜けていませんか？ (POWランプが消えていませんか？)
停電時に使用できない。	内線2を使用していますか？ その他の内線はご使用できません。
増設ベルが1～2回で止まってしまう。	増設ベルは、内線2の電話機に並列に接続してください。 (⇒P10)

症 状	確 認 事 項
<p>モデム通信が時々エラーになる。</p>	<p>キャッチホンサービスをご利用になっていませんか？ キャッチホンサービスをご利用になりますと、モデム通信中に他からの着信でキャッチホン信号が入り、モデム通信エラーになります。 キャッチホン信号が消せる「キャッチホンII」をご利用ください。詳しくはお近くのNTTにお問い合わせください。</p>
<p>着信テストでうまく切替わらない。 (外から電話して、内線IDのPB信号を送出しても切り替わらない)</p>	<p>内線ID(4#, 04#等)の送出手はすばやく行ってください。 (例) 4#を送出する場合 4, #の送出手間隔及び送出手時間はそれぞれ0.5秒以内にしてください。 0.5秒以上になると正しく切替わりません。 0.5秒を長くしたい時は、システムデータにて「内線指定信号の桁間タイ?」を変更してください。 (⇒P 21N0.18)</p>

1 3 . 取 り 付 け

- ・本装置は卓上設置と壁掛け設置の2通りの方法があります。
壁掛け設置の場合には、添付の木ネジを右のガイドにあわせて取り付け、
装置を木ネジに引っかけてご使用ください。(下図参照)



14. ピンク電話の異常動作

★主なピンク電話の誤配線と異常動作の関係

配線状態 ピンク電話種類	ピンク電話側逆	外線側逆	外線、ピンク電話両方逆
	外線 L1+ 内線2 赤表示に白コード L2- 白表示に赤コード	外線 L1- 内線2 赤表示に赤コード L2+ 白表示に白コード	外線 L1- 内線2 赤表示に白コード L2+ 白表示に赤コード
フック式 ピンク電話 (675P-VB)	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可。	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可。	着信：通話可能 発信：硬貨投入しても 無音で不可。
Pてれほん (PT-1P)	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可。	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可。	着信：通話可能 発信：通話可能
コードレス Pてれほん (PT-3CLN)	着信：無音で通話不可 相手は切れる。 LCD表示 「ホナシキマセン」 発信：受話器上げてても 下記の表示で硬 貨投入口は塞が ったままで発信 不可。 LCD表示 「シバラオマチクタイ」	着信：話中音で通話 不可 相手は切れる。 発信：硬貨投入しても 話中音で不可。 LCD表示 「シバラオマチクタイ」 その後、 「コウカイレクタイ」 と表示されるが話中音 が聞こえ発信不可。	着信：通話可能 発信：通常と異なるが できてしまう。 LCD表示 「シバラオマチクタイ」で 発信音聞こえ、 「コウカイレクタイ」 硬貨投入で通話可能
子機側	着信：無音で通話不可 発信：無音で警告音が 鳴る。	着信：無音で通話不可 発信：無音で警告音が 鳴る。	着信：通話可能 発信：通話可能
PてれほんE (PT-4)	着信：無音で通話不可 相手は切れる。 発信：硬貨投入しても 無音で不可。	着信：無音で通話不可 相手は切れる。 発信：硬貨投入しても 話中音で不可。	着信：通話可能 発信：何回かは可能。 そのうち無音で 不可。 但し、着信があるとまた 発信可能。
PてれほんF (PT-51)	着信：無音で通話不可 相手は切れる。 発信：硬貨投入しても 無音で不可。	着信：無音で通話不可 相手は切れる。 発信：硬貨投入しても 無音で不可。	着信：通話可能 発信：通話可能 但し、発信音が聞こえ るまでに数秒かかる。
PてれほんS	着信：無音で通話不可 相手は切れる。 発信：無音で不可。 LCD表示 「ガイセンツェイハンコウ」	着信：無音で通話不可 相手は切れる。 発信：無音で不可。 LCD表示 「ガイセンツェイハンコウ」	着信：通話可能 発信：通話可能 但し、発信音が聞こえ るまでに数秒かかる。

☆ピンク電話は、外線のL1プラス、L2マイナスとピンク電話の赤、白コードを必ず正しく接続してください。(⇒P8, 9)

■ アフターサービス

● 保証書

この商品の保証書は本取扱説明書の巻末に印刷されています。必ず「お買い上げ店名、お買い上げ日」などの記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みのうえ、大切に保存してください。

保証期間はお買い上げの日から1年間です。

● 保証期間中に修理を依頼されるとき

下記の内容をお確かめのうえ、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

〈ご連絡いただきたい内容〉

1. ご住所、お名前、電話番号
2. 品名、お買い上げ日（保証書をご覧ください）
3. 故障内容（できるだけ詳しく）

また、保証期間中のアフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただきました販売店にお問い合わせください。

● 保証期間経過後修理を依頼されるとき

お買い上げいただきました販売店にご相談ください。修理により商品の機能が維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。

■ 仕 様

使 用 電 圧	AC100V±10V (50/60Hz)
消 費 電 力	待機時 約3W、使用時 約7W、最大時 約11W
外線数 / 内線数	1 / 3
接 続 方 法	モジュラージャック、ネジ端子 (内線2のみ)
寸法：幅×奥行×高さ	約210×150×48mm
質 量	約0.8kg
使 用 環 境	温度：0～40℃、 湿度：35～80%


■ 添 付 品

- ◆取扱説明書 1部
- ◆モジュラーコード 1本
- ◆壁掛用木ネジ 2個

富士通コンポーネント株式会社

[販売元] 株式会社 テック

〒141-8630 東京都品川区東五反田2丁目3番5号 五反田中央ビル
 TEL 03-5449-7810(代表) FAX 03-5449-7034

 **ご注意** P30、P31はメモページおよび保証書のページのため、このPDFでは削除しています。